



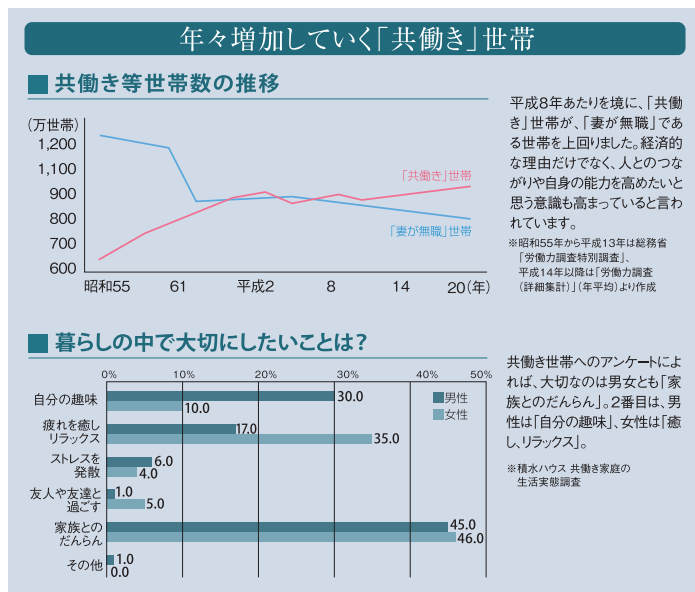
グランドマンション千歳鳥山



グランドマンション桜山スタイル



グランドマンション白金台



環境の変化がもたらす、ライフスタイル、コミュニケーションの多様化。

この10年、私たちが取り巻く環境は、目まぐるしく変化しています。共働きの世帯も増えました。また、インターネットの普及などにより、家に居ながらにして、仕事やお買い物をしたり。また、パーティーを開いたり、家の中の活動が格段に増え、一人一人が、ますます多忙になっています。

忙しい毎日だからこそ、人々は家の中の生活に、より高いクオリティを求め、個人の時間も、家族との時間も充実していきたい、思い切り趣味に興じたいし、ホッと安心して、家族とのふれあいに癒されたいと考えるようになります。社会環境の変化が、家族のライフスタイルや、コミュニケーションの取り方に変化をもたらしています。家族それぞれが個人のことをしながら、お互いに会話を交わすという「ながらだんらん」も、貴重な時間を有効に使いたいという思いのあらわれではないでしょうか。

このような現代のライフスタイルを受け入れる空間として、大きな役割を担うのがLDKです。「家」に居る時間が限られる分、以前よりさまざまな活動、行為をLDKで行なうようになってきました。その影響により、LDKに求められる形も大きく変化してきています。

時代の流れとともに、私たちが取り巻く環境は変化を続け、それは、ライフスタイルにも大きな影響を与えています。家族とのコミュニケーション、仲間たちとの集い、リラックスできる自分の時間。それぞれの家族に、それぞれの時間の過ごし方があり、住空間へ求めることも、多様化が進んでいます。時代とともにうつつりゆく、住まい手が描く理想を受け入れ、姿を変えてきた空間、LDK。今回は、その変化に応えるLDKの形について考えます。

ゆるやかなだんらんと受け止め包み込むLDK

ゆるやかなだんらんと受け止め包み込むLDK



グランドマンション代沢



グランドマンション京町堀タワー



グランドマンション西九条BIO



グランドマンション東海岸南

名古屋マンション事業部 Project Member

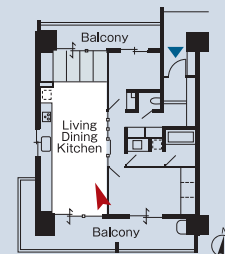
販売室 宅地建物取引主任者 穂積 日記	販売室 高橋 聡一郎	販売室 係長 宅地建物取引主任者 安中 伸介	技術室 係長 一級建築士 三輪 臣哉	技術室 課長 一級建築士 瀬戸 守



わが家流の自由な発想で創るLDK

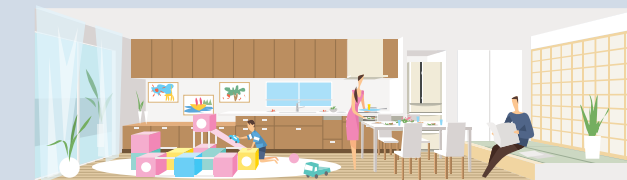
グランドメゾン桜山スタイル A-1 type (事例a)

リビング、キッチン、ダイニング、畳コーナーの全てをひとつの空間に。家具の配置の仕方、さまざまなシーンが演出できます。



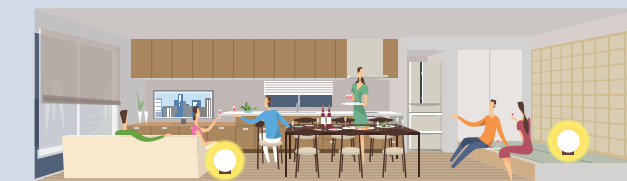
SCENE.1 子どもの遊び場

パパは新聞、ママはお料理。ボクはおもちゃを部屋いっぱい。子どもを中心としたLDK。



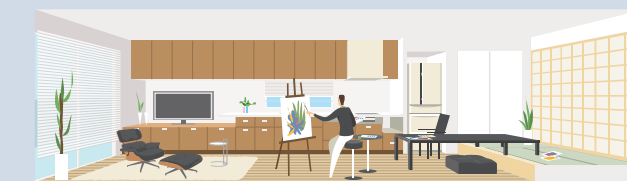
SCENE.2 仲間とパーティー

思い思いの場所に座りながら、どっぴおきのワインとカナッパ、そして素敵な会話を楽しむ。



SCENE.3 My アトリエ

お気に入りの家具だけを厳選。オフタイムには、BGMを流しながら、絵を描くアトリエに。



くつろぐだんらんが好き

グランドメゾン桜山スタイル C-1 type (事例b)

ずっとここに居たくなるようなビートルリビング。座る、もたれる、寝転がる…。過ごし方は思いのまま。くぼみ効果”が心を落ち着かせる効果を生み、自然と家族が集う空間に。



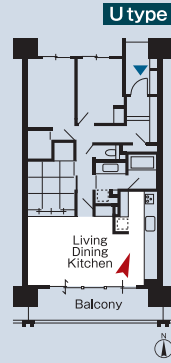
ここ10年で大きく変わってきた、LDKの形。

そもそもLDKとは、どういう空間だったのでしょうか。

「LDKと言っても調理の場としてのKと、LDに区切られた設計が多かったです。それに、LDもリビングゾーンとダイニングゾーンを使い分けていましたね(三輪)」「リビングには、いわゆるリビングセット。ソファとセンターテーブル。お客様のおもてなしゾーンですね(安中)」「ダイニングには、4人または6人掛けのダイニングテーブル。家族のだんらんです(高橋)」「キッチンは、ダイニングに対して独立型もしくは対面型。作業面がLDから見えにくいように工夫していました(瀬戸)」「どちらかと言うと、調理作業を見られたくない方が多かったですね(三輪)」「しかし、数年々さまざまな変化が目立ってきました。」

う感じですね(安中)

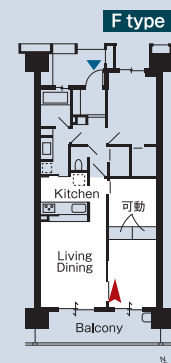
「ソファも、お客様と向かい合いお話しする、もてなしの場としての役目が減り、手元のテーブルに飲み物を置いてテレビを楽しむというよくな、くつろぎの場として使われることが増えました(瀬戸)」「だんらんのスタイルも変わってきましたね。家族それぞれの時間が合わず、食事をしながら、だんらんすることが難しくなってきたため、もっと柔軟な発想でコミュニケーションを取るようになってきました(三輪)」「例えばリビングにいて、家事や仕事、勉強、あるいはくつろぐなど、家族がそれぞれの時間を過ごしながらも、お互いに会話を交わす、という、なごらかなだんらんもあります(瀬戸)」「こうしてみると、もてなし、だんらんする、くつろぐの境目が曖昧になってきた、と言えませんか?もてなしもくつろぎも、ゆるやかなだんらんというスタイルになってきたという感じがしています(高橋)」「また、LDK以外の空間で行なわれていたことも、LDKへ持ち込



趣味コーナーを設けたキッチン

(事例c) グランドメゾン熱田の杜

キッチンのワークスペースを延長して、ダイニングゾーンまで延びたロングカウンター。奥様の趣味コーナーとして、また、パソコンでレシピを検索したりするワークスペースとしても、お子様のお勉強スペースとしても活躍する空間です。長さを確保した分生れた収納力は、お料理まわりの道具だけでなく、お子様のお勉強道具などもしっかり片付けられます。



子育て応援LD

(事例d) グランドメゾン伊丹池尻リテラシティ

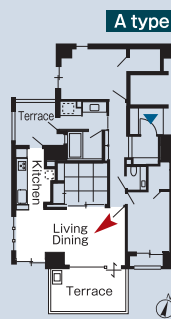
リビングと隣接する子ども室との仕切りは引き戸となっており、リビングとのつながりをフレキシブルに調整できます。親と常に一緒にいる、という段階から、自立を意識する段階まで、子どもの成長段階に合わせて空間を構成できます。また、子ども室は、写真右手にある白い可動式の収納で、2部屋に仕切ることができます。

LDKへのさまざまな要望に応える設計を。

このように、さまざまなことが行なわれるマルチ空間を想定したとき、具体的にはLDKの設計にどう現れているのでしょうか。「グランドメゾン桜山スタイルでは、ゆるやかなだんらんをテーマにいろいろなシーンを演出する場としてLDKを設計しました。A1タイプ(事例a)では、南北に開放された明るく風通しの良い空間に、壁面収納と二体のキッチンを据えることでLDKの境目を無くした広がりのある空間としています。段上げた畳コーナーは腰を掛けると空間全体を見渡せるコーナーになっています(三輪)」「このLDKは、いろ

もてなし、だんらんする、くつろぐの、境目がゆるやかに、さらなるマルチ空間へ。

このように、LDKとして受け入れられる形の許容範囲が広がっていく背景には、「時代の変化に応じて、LDKで行なわれる行為もまれるようになってきています。」「洗濯物をたたんだり、パソコンをしたり、お勉強したり。そして子育ての舞台も「種積」「家族のいるLDKで、家族と一緒におしゃべりしたいから、というご家庭が多いですね(安中)」



大らかな空に伸びゆくLDK

(事例e) グランドメゾン大瀬テラス

LDK空間を、リビングから自然の光と風に溢れるパルコニーへフラットに広げ、パルコニーにもうひとつのリビングを持つという発想をカタチに。LDKで過ごす時間の“質”を、高めるアイデアです。自ら育てたハーブをお料理やお茶に使う、パルコニーでティータイムやランチなど、暮らしの楽しみが広がります。

みんな集まれキッチン

(事例f) グランドメゾン日野万願寺

ダイニング空間の中に浮き島のように存在する。アイランドキッチン。左右がオープンになるため、家族やお友達と一緒に賑やかに料理ができる楽しさが生まれます。吊り戸棚が無い分の収納スペースも、背面にしっかり確保しています。



いろいろなシーンを演出できます。ダイニングテーブルとソファを置いて畳コーナーも含め、集った仲間が、好き勝手に座って会話をするというだんらんのもてなしLDK。また、子どもが大きな遊具を遊ぶにも十分な広さ。ママもパパもそれぞれのことをしながら、子どもを見守ったり、声をかけたり。あるいは、趣味のためのアトリエスペースとして、スタイリッシュな感覚で使っていたくつろぎたいです(瀬戸)」「他にも、趣味カウンターを設けたキッチン(事例c)や、子ども室と連続させた子育てリビング(事例d)など、さまざまなコミュニケーションスタイルや自分時間を楽しめるLDKをご提案しています。」「ご家族、ご友人など、住まい手それぞれのコミュニケーションスタイルとして多様化していくでしょう。それにとまなないLDKに求められることは、さらに多種多様になっていきます。グランドメゾンでは、これからも、さまざまな変化を察知し、住まい手のご要望に応え、より心地よく暮らして頂けるLDKをご提案してまいります。」

変化した」ということがあるようです。LDKで基本的に行なう行為は三つ。もてなし、だんらんする、くつろぐ、と言われていきます。もてなしは、接客。お客様をお通しして、お茶を出す。お話をす。センターテーブルを挟み、もてなし側もなされる側という立場も明確。だんらんするは、家族が食卓を囲んだりして、楽しく時を過ごす。くつろぐは、リラックスしている姿。足を投げ出して座ったり、お行儀が悪くても、寝転がってテレビを見た。このように、もてなし、だんらんする、くつろぐは、人と人とのコミュニケーションの取り方を表現する言葉でもあるわけですが、この「コミュニケーションの取り方」が、最近変化してきました。かつてのもてなしは、こちらが用意しておいた料理を召し上がっていただくのが当たり前でしたが、今は、招いたお客様も一緒に料理作りを楽しむ、参加型のもてなしも増えていきます(三輪)」「お客様は、もてなし相手というより、だんらんを楽しむ仲間とい